

季節調整値の改訂について

毎月勤労統計調査全国調査は令和2年1月分結果速報公表時に、令和元年12月分までの季節調整値を改訂した。

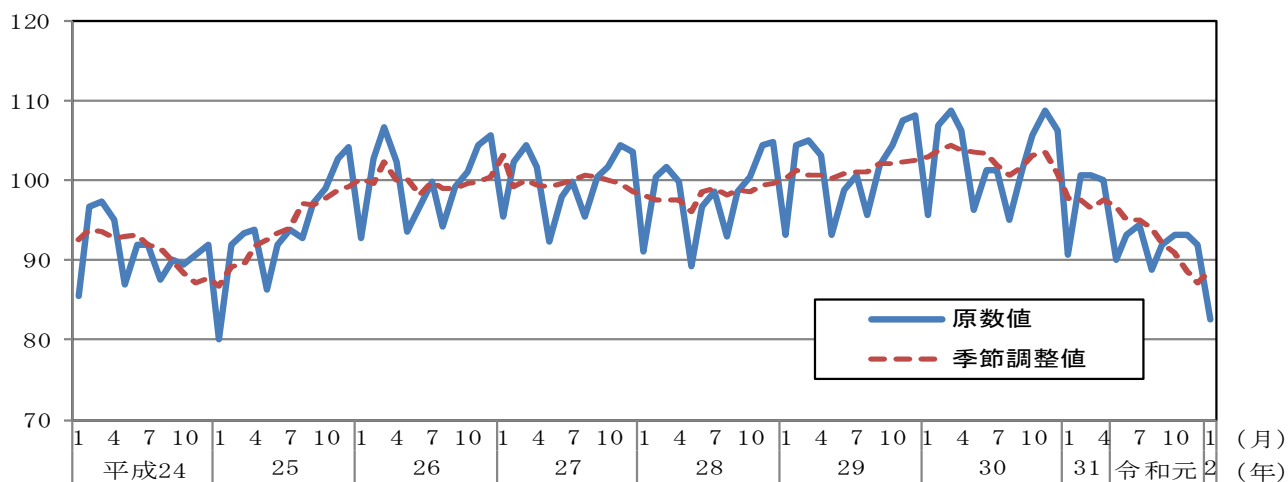
1 季節調整とは

雇用や労働時間などが前月と比べて増えたか減ったかをみるとき、それが例年のパターンなのか経済実態を反映した傾向なのかを見分ける必要がある。

例えば、製造業の所定外労働時間は、休みが多い1月や5月に少なく、秋口から年末にかけて多いというパターンが例年みられる。季節調整値とは、このような例年のパターンを取り除いて、直接前期のデータと比較できるようにした指標のことである（図）。

季節調整は、例年のパターンを過去の動きから推計して行うが、推計方法には様々な手法がある。日本では、米国の商務省センサス局が開発したX-12-ARIMA という方法が多く採用されている。

図 原数値と季節調整値（製造業所定外労働時間指数）（2015年=100）



2 毎月勤労統計調査の季節調整

毎月勤労統計調査全国調査では、雇用指数、労働時間指数、賃金指数などの主要な系列について、原数値と併せて、X-12-ARIMAによる季節調整値も公表している。X-12-ARIMAには計算のオプションがいくつかあるが、そのうちの「X-11 デフォルト」と呼ばれるオプションを用いている。

取り除くべき各月の例年のパターンを表す数値のことを「季節要素」という。季節調整値は、原数値を季節要素で除して得る。この季節要素は、過去の前数値を基に計算するもので、計算に用いる原数値の期間によって変わり得る。毎月勤労統計調査全国調査では、毎年、1月から12月までの新たな1年分のデータが揃うたびに計算の基とする期間に加え、季節調整値を再計算する。この季節調整値で、これまでに公表していた季節調整値を過去に遡及して改訂するとともに、向こう1年間の各月の季節要素（予測季節要素）を得る。毎月の速報値及び確報値の季節調整値は、この予測季節要素を用いて計算しているものである。

過去の例をみると、改訂後は、改訂前と比べると、指数の増減の波が緩やかになる傾向にある。